

双葉通信【第 226 回】（人生は旅人No.20）“ふくしまに恋をして 福島人に”

20241020 上田 勉

門脇（かどのわき）小学校（宮城県石巻市）一児童・教職員は全員が助かる

2011 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、東日本大震災が発生しました。門脇小学校にいた児童・教職員は訓練どおりに裏の日和山へ避難しました。地震から約 1 時間後、大津波が襲来しました。その後、津波火災が発生して校舎は炎に包まれました。門脇小学校の児童・教職員は全員が無事でした。しかし、小学校のある南浜・門脇地区では 500 人を超える方が犠牲となりました。門脇小学校は震災遺構になっています。3 階建ての校舎です。1 階は津波で、2・3 階は火災によって被害を受けました。

10 月 10 日、3・11 メモリアルネットワークの中川さんの話を聞くことができました。

小学校は海から 800m です。児童・教職員の訓練では、日和山の市立女子高等学校へ避難することになっていました。しかし、校庭へ避難することを断られて、その先の日和山へ避難しました。

津波なのに何で火事になるのか？津波が建物を流す時に、ガス管が破損してガスが漏れて、引火するのも原因だとのこと。

校長室の金庫には、卒業証書が保管されていました。幸いにも津波にも火災にも無事で、4 月になって、卒業生に授与することができました。

机を後ろに片付けて、共同作業をしていた教室がありました。地震が起きたら机の下に、しかし机は後ろに並べられていたので、児童たちは頭に手を当てて、地震に遭いました。また、校舎には防火シャッターがあったために、延焼を免れました。

津波の危険のために、校庭から日和山へ行く道が通れなくなりました。児童や住民達は、校舎の裏側から裏道を通って日和山へ向かいました。校舎から裏道には約 1m の隙間があります。そこに机を置いて、隙間を渡ることができました。“津波が来たら自分だけでもとにかく逃げる”、このことが生死の分かれ目だとのこと。

石巻市は震災の事象と教訓を伝え続けるために、被災した校舎の一部を残して震災遺構にしました。

日和幼稚園—園児 5 人が亡くなる

日和山の高台には日和幼稚園がありました。津波にも火災にも安全でした。しかし、幼稚園は大震災の後、園児を親元へ帰すために、幼稚園バスを発車しました。わざわざ高台から海へ向かって発車したのです。

運転手は被災を免れ、無事に幼稚園に戻ったものの、園児のいることや被災場所も伝えませんでした。また、園長はじめ先生達も被災した園児の居場所すら、運転手に聞くことをしませんでした。残念ながら救助活動は行われませんでした。運転手は助かりました。

津波が押し寄せてから 10 時間後に、子ども達が居た場所は火災が発生して、5 人の子ども達が亡くなりました。津波ではなく、火災によって。



【1階が津波で、2・3階が火災で被災した門脇小学校】



【津波で被災した職員室】